



利用について

読み上げ・ふりがな

白

黒

青

標準

拡大

言語を選択

組織でさがす



カレンダーでさがす



目的でさがす



検索

ホーム

暮らし・安全・環境

観光・文化・スポーツ

健康・福祉

教育・子育て

しごと・産業

県政情報

[ホーム](#) > [組織でさがす](#) > [埋蔵文化財調査センター](#) > 平成28年度整理作業報告

平成28年度整理作業報告

掲載日:2016年4月1日更新

整理報告

3月13日更新 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う発掘調査で出土した縄文土器の検討会を行いました。

調査研究課の尾崎です。

2月23日(木曜日)に豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う発掘調査で出土した縄文土器の検討会を行い、様々な御指導を東海地方西部の縄文土器を半世紀にわたり検討されている増子さんからいただきました。

今回実見対象となった主な遺跡は猪移り(いうつり)遺跡、柿根田(かきねだ)遺跡、栗狭間(くりはざま)遺跡、鶴ヶ池(つるがいけ)遺跡(すべて豊田市下山代町に所在)、南川(みなみかわ)遺跡(豊田市花沢町)から出土した縄文土器です。遺跡によって詳細な時期は異なりますが、縄文時代早期(今から約1万年前)から晩期(今から約3000年前)までの土器を確認することができ、下山地区では約1万年前から人々が暮らしていたことが分かります。

縄文土器の観察では、土器につけられた文様、胎土、焼け具合、保存状態などを観察していきます。観察の結果、出土土器には、**東海地方の特徴を持つもの、関東地方の影響を受けたもの、また関東地方などから搬入されて下山で使われたものなど、様々な土器が含まれていることが明らかになりました。**増子さんも驚きを隠せない様子でした。

この検討会を通して明らかとなったこと下山地区における縄文時代の研究に活かし、発掘調査報告書に反映して行きたいと思います。



検討会の様子

1月13日更新 木製品の実測

調査研究課の鶴飼です。

下山テストコース関連遺跡から出土した遺物の実測は、土器に続き**木製品・金属製品の実測**を進めています。今回は木製品の実測について紹介します。

木製品の実測では**遺物の大きさや形だけでなく、加工方法や用途、使用方法などの情報を記入します。**縦引きのこぎりが普及する室町時代以前には、丸太を楔(くさび)やのみなどを使って割り、板材や角材を作っていました。遺跡から出土した木製品を観察すると、**割ったり削ったりした痕跡が残っていることがわかります。**なかには**一度使用した木製品を加工して、再利用しているものもあります。**

実測ではこれらの痕跡を図面に記録し、当時の加工技術を説明していきます。下の写真は大型木製品の実測風景ですが、乾燥を防ぐため常に湿らせながら作業を進めていきます。



実測作業の様子

今後も整理作業の様子を紹介していきますので、よろしくお願いします。

12月8日更新 遺物の実測道具について

調査研究課の鵜飼です。

整理作業は豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う発掘調査で出土した土器の実測が大詰めに差し掛かっています。また木器・金属器の実測・トレース、土器の実測図トレースの委託業務を引き続き進めています。

今回は**実測に使うおもな道具**について紹介します。

実測では**遺物の外形や厚さ、文様(もんよう)や成形に使った道具などの跡を図面に記録**します。実測に使う道具には鉛筆・消しゴムなどの筆記用具、定規・三角定規、コンパスのようなおなじみの道具のほか、マーコやキャリパー、ディバイダーといった、あまりなじみのない道具を使います。



実測道具 土器の大小によって、実測道具の大きさを変えて使います。

マーコ(真弧とも呼びます、写真右上)は竹や鋼線をくし状に加工、固定した道具です。遺物に直接押し当て、外形を写し取るために使います。

キヤリパー(写真左)は、遺物の厚さを計測するために使います。

ディバイダー(写真右下)は2点間の長さを測る時に使います。

これらの道具を駆使して遺物の持つ情報を正確に写し取り、実測図を作っていきます。

今後も整理作業の様子を紹介していきますので、よろしくお願いします。

11月1日更新 遺物の実測作業について。

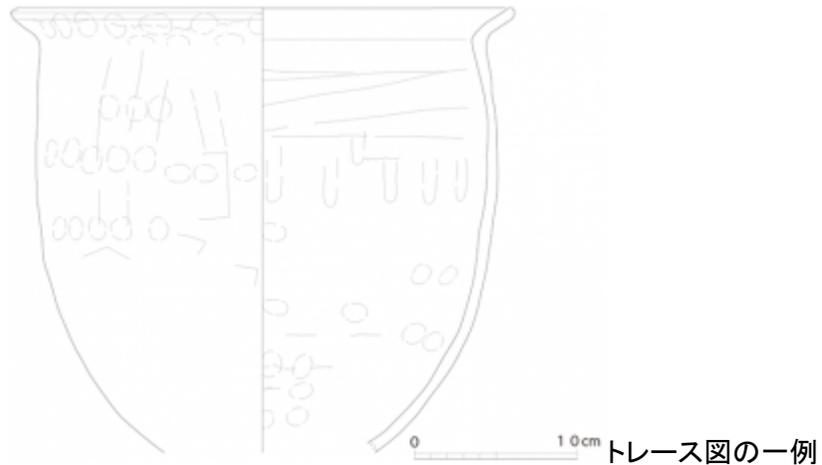
調査研究課の鵜飼です。

整理作業は豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う発掘調査で出土した石器の実測・トレースの委託業務が完了しました。現在は土器・木器の実測およびトレースの委託業務を進めています。



実測作業風景

実測図の作成が終わると、次にトレース作業に入ります。トレースは、**実測図に描かれた土器の外形や文様、製作時に用いた工具の跡などを写し取る作業です**。近年では実測図の図面を画像として取り込み、コンピューターソフトを使って線の太さや濃淡を整え、清書することが主流となっています。こうして**作成された実測図を統一された縮尺にそろえ、遺物の図版を作ります**。



今後も整理作業の様子を紹介していきますので、よろしくお願いします。

6月8日更新 墨書土器に書かれている文字・記号の解説を行いました。

調査研究課の尾崎です。

6月7日(火曜日)に**墨書土器に書かれている文字・記号等の解説を行いました**。墨書土器とは、土器の外面または内面に文字・記号が墨で書かれているものです。

解説は、名古屋大学文学部の古尾谷知浩先生と愛知教育大学教育学部の西宮秀紀先生に指導してもらいながら行いました。

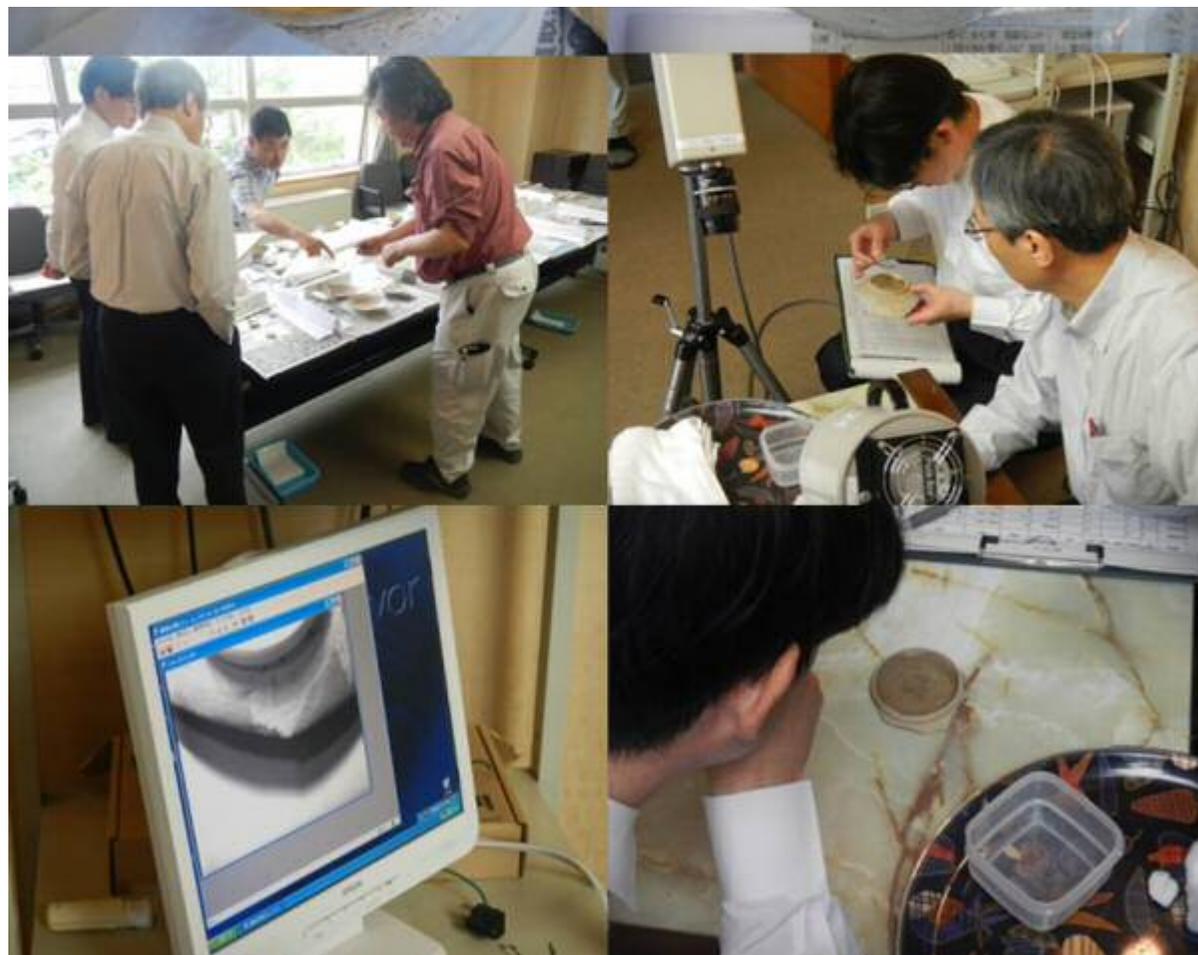
対象になった墨書土器は、当センターが発掘調査を行った**豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業関連の遺跡から出土した灰釉陶器と山茶碗**です。

下の写真にあるように、肉眼観察だけではなく、**赤外線**を土器に照射して分析を進めていきました。赤外線を照射することによって、薄く消えかけている文字・記号も解説することができます。

解説の結果、灰釉陶器には「万」「小」「少」「東」「本」「奉」などが、山茶碗には「一」「二」などが墨書されていることが明らかになりました。

今回の解説の結果から、異なる遺跡で同じ文字を墨書された土器がどのように出土しているのか、墨書を行ったのはどのような人々なのか等の分析が進むことなどが期待されます。





一段目(左):「東」と書かれた墨書土器

一段目(右):「酒(その下の文字は不明)」と書かれた墨書土器

二段目: 墨書土器の解釈の様子

三段目(左): 赤外線を用いた解釈の様子

三段目(右): 墨書土器の解読の様子

5月23日更新 整理作業の様子を報告します。

調査研究課の尾崎です。

調査センターの1階整理室では現在、**豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業関連の遺跡である柿根田遺跡**の遺物を中心に整理作業を行っています。現在の作業としては、**実測、拓本**を行っています。



上段左: 遺物の実測の様子。

上段右: 拓本取りの作業の様子。

下段左: 柿根田遺跡出土の縄文土器。

下段右: 柿根田遺跡出土の山茶碗の小皿。

遺跡から出土した遺物は、**洗浄**⇒**注記**(遺物がどの遺跡から出土したのか、どの遺構から出土したのかなどを書く)⇒**接合**(バラバラになっている遺物をつなぎ合わせる)⇒**実測**(遺物を計測し、図に起こす)⇒**拓本**(遺物の文様を写し取る)というように進んでいきます。

今後も整理作業の様子を更新していきますので、よろしくお願いいたします。

[一つ前のページに戻る](#)

[このページのトップへ](#)

[このホームページについて](#)

[個人情報の取扱い](#)

[免責事項・リンク](#)

[RSS配信](#)

 シェアする

 ツイート

 LINEで送る

ソーシャルメディア一覧へ

愛知県

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 代表電話: 052-961-2111 ([県機関の連絡先はこちら](#))
法人番号1000020230006

Copyright (C) Aichi Prefecture. All rights reserved.